

生団連会報

2016年8月
VOL.17



巻頭言

独立行政法人 大学改革支援・
学位授与機構 顧問・名誉教授
元東京工業大学長
元東京都教育委員会委員長
木村 孟 様
「外国への留学拡大に
経済界の協力を」



会員様 メッセージ

～わたしもひとこと～
全国商店街振興組合連合会
理事長
坪井 明治 様

生
活
者
の
視
点
を
大
切
に
守
り
ま
す
。



活動報告

- ・平成28年度 理事会・定時総会
- ・平成28年度 事業計画の概要
- ・記念講演会(株式会社感性リサーチ代表取締役社長
感性アナリスト 黒川 伊保子 様)
- ・記念パーティ
- ・すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト!
「ソナエラボ」がスタート
- ・生団連共催 第3回東京防災ミーティング
- ・3R漫画「地球にいいコト考えよう!」を発行しました。
- ・第5回 廃棄物リサイクル分科会
- ・第6回 アクティブライフ意見交換会
「家事について」
- ・生団連ホームページをリニューアルしました!
- ・『クールシェア』家族でお出かけ節電しませんか!
- ・定例勉強会



外国への留学拡大に経済界の協力を

世界の多くの国々がグローバル化する世界の一員となるべく様々な努力を重ねているが、最も腐心しているのが「如何にしてそこで活躍できる人材を育てるか」であると言っても過言ではない。

EUはこれを実現するため、域内の全学生の20%に留学或いは自国以外での長期インターンシップを経験させるという目標を掲げ、モビリティプログラムを推進している。数年前に纏められたこの壮大なプロジェクトに関する報告書は、留学にせよ仕事にせよ、長期の外国経験が如何に大きな効果をもたらし、グローバル社会のために必要な人材養成に寄与するかを定量的に示している。

実施された調査は対面聞き取りを基本としており、対象者は、学生・卒業生・大学の研究者並びに事務スタッフで、総勢8万人弱に及ぶ。この他大学、企業に対しても調査を行っている。前者については、当該プログラムに参加した者としいない者の双方を含み、参加したものについては、参加前と帰国後に聞き取りを行っている。この調査の際だった特徴であり且つ注目すべき点は、グローバル社会に必要な六つの資質・能力(スキル)を明確に定義し、それを定量的に計測することを試みていることである。

調査結果の中で最も驚かされたのは、プログラム参加者は留学或いはインターンシップ経験によって、非参加者の2.2倍のスキルを身に付けているという点である。また、参加者の77%が卒業後10年で管理職に就いており、この割合は非参加者の1.44倍となっている。その他、国際舞台で働きたいと答えている者が、非参加者では78%であるのに対し参加者では95%にも上っている。報告書にはこの他にも、参加者が様々な点で外国経験の成果を享受しているデータが掲げられている。

このような結果を前に我が国の状況を鑑みると、暗澹たる気持ちにならざるを得ない。OECD統計によると、派遣留学生は2004年の8万3千人をピークに、2012年には6万人を下回る状況となっている。特に、アメリカについては47,073人から19,586人へ、イギリスについては6,395人から3,633人へと大きく減少している。

東京都教育委員会では、平成23年に高等学校2年生を対象に留学志向についてのアンケート調査を実施した。「今後、留学したいと思うか」という問いに対し肯定的な回答が27.5%、否定的なものが47.2%であった。関係者の間には、「高校生の時代に留学に興味を示さない者は、大学に入っても同じである」という共通認識がある。従って、我が国発の留学生を増やすには、この傾向を変えなければならない。それには、日本の企業、特に大企業が留学経験を評価し、採用者に占める留学経験者の割合を増やすことである。

我が国の様々な業界の中で流通業の躍進は目覚ましい。日々改革に取り組み、絶えず時代の先端を視野に入れておられる。この様な職場こそ、留学経験者にとって格好の働き場である。生団連関係の各企業の皆様に、特段のご配慮をお願いする次第である。

○略歴

昭和13年東京都中野区生まれ。東京大学大学院修士課程土木工学専攻修了、東京工業大学工学博士。昭和57年に東京工業大学教授就任後、学長を経て、現在名誉教授。東京都教育委員会委員長、文部科学省顧問等を歴任し、平成28年4月より独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の顧問・名誉教授に就任する。



独立行政法人
大学改革支援・学位授与機構
顧問・名誉教授
元東京工業大学長
元東京都教育委員会委員長
木村 孟様
(きむら つとむ)


■ 生団連の使命

「国民の生活・生命を守る」

■ 生団連の活動指針

- 一、国民生活の安全・安定の確保と質の向上、関連業界の健全な発展への貢献を通じて、「国民の生活・生命を守る」という使命を追求し続けます。
- 一、世界的な視点から日本の現状を顧みて、立ちはだかる諸課題に対し、御上頼りになることなく「自ら解決に取り組む先駆け」となることを目指します。
- 一、生産・製造・流通サービスの業界と消費者団体が一体となって大いに研究・議論を尽くし切磋琢磨して、政府・行政の政策運営に対する発言力、提案力、そして実現力の確保に努めます。

CONTENTS

■ 生団連の使命・活動指針 …………… P.1	■ 活動報告
■ 巻頭言 …………… P.2	● 平成28年度 理事会・定時総会 …………… P.7
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授 元東京工業大学長 元東京都教育委員会委員長 木村 孟様 「外国への留学拡大に経済界の協力を」	● 平成28年度 事業計画の概要 …………… P.8
■ 会員様メッセージ …………… P.3	● 記念講演会 …………… P.9 (株式会社感性リサーチ代表取締役社長 感性アナリスト 黒川 伊保子 様)
● ~わたしもひとこと~ 全国商店街振興組合連合会 理事長 坪井 明治 様	● 記念パーティ …………… P.11
	● すぐに見える、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」がスタート …………… P.13
	● 生団連共催 第3回東京防災ミーティング … P.14
	● 3R漫画「地球にいいコト考えよう!」を発行しました。 P.15
	● 第5回 廃棄物リサイクル分科会 …………… P.16
	● 第6回 アクティブライフ意見交換会 「家事について」
	● 生団連ホームページをリニューアルしました! … P.17
	● 「クールシェア」家族でお出かけ節電しませんか! P.18
	● 定例勉強会



～わたしもひとこと～

全国商店街振興組合連合会
理事長
坪井 明治 様
(つばい あきはる)

1. 全国商店街振興組合連合会
について

商店街の組織等定めた唯一の法律であります「商店街振興組合法」が成立したきっかけは、東海地方に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風でした。台風の被害が非常に大きかったことから、

被災した商店街の街路灯やアーケード等の公共的施設を復旧させるために国の支援を要望しましたが、法人格のない団体は対象にできないと退けられました。それでも市民生活が困窮していたことから、生活の安定には商店街の整備が必要と、早急に法人化を図ることを条件に支援が受けられました。以後は法律制定促進運動を全国展開し、議員立法で昭和 37 年に法律の成立をみました。

成立した後、全国各地で組織化が進んだことから、商店街の思いを国に反映させるための全国組織が必要との機運が醸成し、法律制定 6 年後の昭和 43 年に「全国商店街振興組合連合会(全振連)」が発足しました。

現在会員は47都道府県の商店街振興組合連合会、その傘下には約 2,000 の商店街振興組合と約 100,000 の商店を有する組織となっております。

全振連は各都道府県の商店街振興組合連合会や組合員の意見をまとめ、国や行政機関に対し具申・要望を行うとともに、連合会の組織・運営に関する講習会、研修会等の人材育成事業や商店街の近代化、活性化のための調査研究及び成果の普及活動などを実施しています。また、傘下の商店街は地域の伝統・文化の継承、子育て・高齢者支援、安全安心なまちづくりなど「地域コミュニティの担い手」としての役割・機能を担い公共の福祉の増進にも貢献しております。

今力を入れていることは、全国の消費者が景気回復を実感するために必要な、個人消費の喚起対策です。GDP の約 6 割は個人消費でありますので、ここに刺激を与え消費を喚起し経済の好循環を促進させることが肝要であると懸命に政府に訴えました。その結果、平成 26 年度補正予算でプレミアム商品券発行事業として 2,500 億円を付けていただき、全国で実施しました。す

るとこれが好評で、私の地元名古屋市では、プレミアム分の 3.5 倍以上の経済効果があり大変良い結果がでております。

景気の停滞が続いていることからこれを上向かせるために、もう一段上の消費喚起策を講ずることを政府に強く要望しており、経済の好循環と地域の活性化に努力しているところであります。

2. 生団連について

生団連が行っている四つの活動(災害対策・食品廃棄対策・エネルギーと環境問題・人口減少超高齢社会対策)に関してはどれも難しい問題と思っております。



全振連の講習会の様子





今回の熊本地震では東日本大震災の反省を生かし、発生と同時にいち早く現地に赴き生の声を直接聞き、問題点を掴むといったことができたかと思います。我々は商店街単位ですから、被災した商店街に入りそこに何が必要かニーズを聞くことで、新たなものを支援していくということが重要であると思います。やはり生の声を活かすということが大変喜ばれていたように感じました。

災害支援の寄付に関しましても六月いっぱいまでに取りまとめ、熊本県、大分県の商店街振興組合連合会にお渡しするというのもやっています。東日本大震災の時はみんなが慌てている間に年月が経ってしまいました。それに比べれば今回の熊本地

震への対応は早くなり着実に前進していると思います。

エネルギー問題に関しましては、我々商店街も常々街路灯などで大手の電力会社とコミュニケーションを取りながら、お付き合いをさせていただいています。話題の中心はいつも電灯料金が高いといったことになりがちですが、一番大事なことは安定供給であります。電気が止まってしまったら街路灯の明かりが消え地域の安心・安全を保つことができません。現在の料金システムは大口の需要家は安く、小さな個人商店は高い値段で購入するという不利益を受けております。このことは電力だけでなくガスに関しても同様になろうとしています。弱いもの、小さいものにしわ寄せがこないような料金システムにさせていただくことをお願いしたいものであります。

中でも食品廃棄の問題、特に賞味期限に関しては強く関心を持っております。賞味期限がきたからといってすぐ捨てるのではなく、何とか活用する方法はないのだろうかと考えて頂いていることは我々の商店街にとっても大変意味のあることだと考えております。

商店街で売っているものの中で大きなウエイトを占めるものが食料品であります。私自身も勘違いし、賞味期限が過ぎたものは全て捨てるものだと思っていましたが、そうではありませんでした。このようなことを消費者の皆さんに広く伝えることは重要なことであると考えております。

防災に関しては、災害が起きてから対策を講じるという後追いになっているのが現状ではないかと考えており、支援については長い取り組みが必要と感じております。そう言った意味においては、

また、環境問題に関しては、始めは捨ててしまうだけで何も対策をしなかったものが、行政が対策を講じ始めたことから少し取り組みが進んできたのではないかと思います。消費者もリサイクルに取り組むことは大変良いことであるし、必要なことであるという意識が広がっています。資源は無限ではなく有限でありますので、これからの社会においてリサイクルは必要不可欠だと思います。日本は世界の中で環境先進国でありますので環境問題に対しましてはリーダーシップを発揮し、環境意識を世界に広げていければ良いかと思います。

人口減少超高齢社会については、日本は子供を産み育てていくことが非常に難しい環境にあるかと考えております。そういう意味においては日本の対策はまだ十分とは思っておりません。我々商店街はそういった子育て世代を一生懸命支援しております。例えば、愛知県の名古屋市では幼児から中高生までの子供を持つ親を対象にした「びよか」というカードがありそのカードでお買い物をして頂くと一割引になったり、デパートの駐車



料金が無料になったりする支援をさせて頂いています。まだまだPR不足かもしれませんが、国もこれを見習い今後都道府県に対して推奨していきたいと考えております。我々商店街の取り組みが少しでもお役に立てば幸いと考えております。

3. 生団連への期待

生団連の強みは、業種や業態が一緒になって活動されていることから、様々な角度からご意見がいただけることでもあります。特に私が印象に残ったことは消費者団体の方々から生のご意見がいただけることでもあります。生の声は聴けるようで実は聴けないものなので、これは生団連ならではの強みだと思っております。

また、生団連は、いかなる場合においても国民生活に必要な生活必需品を安心して安全にかつ安定して供給し、国民の生命と安全に大きく寄与されることを目的とされています。これは、我々商店街が地域の顔として、また、地域コミュニティ

の担い手として、地域のにぎわい創出や歴史・伝統・文化の継承、防犯・防災、子供やお年寄りの見守りなど多岐にわたり地域住民の暮らしを支える重要な役割を担っていますことと同じような使命があるものと感じております。

このようなことから生団連とは、今後とも様々な場面において切磋琢磨し、相互にレベルアップを図り、国民生活の向上と地域の活性化に寄与してまいりたいと考えております。

平成28年度 理事会・定時総会

平成28年7月6日(水) 15:00~
ホテルニューオータニ 本館1階「鳳凰の間」



総会には、約600名の会員の皆様にご出席いただきました。
下記決議事項についてお諮りし、すべての議案が原案の通り異議なく可決承認されました。

《決議事項》

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 第1号議案 平成27年度事業報告について | 第4号議案 平成28年度事業計画(案)について |
| 第2号議案 平成27年度収支決算について | 第5号議案 平成28年度収支予算(案)について |
| 第3号議案 役員改選(案)について | 第6号議案 会員の異動について |



平成28年度 事業計画の概要

会員の皆様のご理解とご協力の下、当連合会最大の特徴である生活者と事業者が結束し様々な課題に挑む団体として、引き続き国民生活のより一層の向上に寄与するべく取り組みを進めてまいります。

《活動計画内容》

大災害への備え

- ◆子育て世代の女性を対象にした「すぐにできる、防災のアイデア」の発信
 - ・会員様リソースを活用した子育て世代の女性にマッチした情報発信
 - ・情報発信サイトへの誘因策の実施

食品廃棄問題への対応

- ◆「期限表示の理解促進」のための周知啓発活動
 - ・期限表示に関する情報をまとめた冊子の作成・Webサイトの更新
 - ・イベント「もったいないゼロキャラバン」の実施

エネルギーと環境問題への対応

- ◆容器包装リサイクルの実態と合理的な3Rの推進に向けた啓発・問題提起および会員企業・団体における「3Rの取り組み」事例のPR
 - ・漫画冊子の普及活動
- ◆生活者が取り組みやすい節電・省エネの推進
 - ・電力需給のピークカット対策：「クールシェア」など

人口減少と超高齢社会への対応

- ◆家事のスキルとマインドが低い男性への周知啓発・意識醸成・行動喚起
 - ・買エルマン：Webによる周知啓発・意識醸成・行動喚起
 - ・ちよいカジマニュアル：制作と配布
- ◆生団連とシニアとのコミュニケーション強化と暮らしの改善
 - ・アクティブライフ意見交換会：年4回の実施

会員サービスの充実および広報活動の強化

- ◆会員向けセミナーの開催
- ◆国際経済研究所との共催による「定例勉強会」の定期開催
- ◆連合会の活動主旨に合致する会員の皆様の活動に対し、他の会員の皆様への情報提供や活動への参画・協賛など、積極的な活動を支援
- ◆会報誌の定期発行(年間4回発行予定)
- ◆ニュースレターの定期発行(毎月発行予定)
- ◆ホームページのリニューアル

記念講演会

テーマ：人生に効く脳科学

～脳が創りだす 男女のミゾ、人生の波、時代の風

講師：株式会社感性リサーチ代表取締役社長 感性アナリスト 黒川 伊保子 様



突然キレル女と察せない男の「男女のミゾ」

私は脳科学の専門家ですが、元は人工知能のエンジニアです。辛い文句一つ言えない男子たちに混じり、人とロボットの会話を研究するうち、私は『男女で気持ちいいと思う会話が違う』ということに気がきました。その理由は、男女の感性の違いです。男性からよく「女はなぜ些細なことで突然キレルのか?」と尋ねられますが、古今東西、些細なことでキレル女は一人もいません。女性の脳は、過去の関連記憶を一瞬で思い出す天才です。これは子育てのための能力で、ママ友の話、テレビのワンシーン、母親や祖母の行動を全て脳裏に取り揃えます。今と同じ気持ちになった時の体験記憶を、一気に思い出す力です。また、記憶を想起した瞬間に脳内で再体験するため、記憶当時は理解できなかったことも理解できます。言いかえれば、男性が何か無神経なことを言うと、過去の無神経な発言を全部一瞬で思い出し、再体験するという。女性がキレたら、過去のツケを全部払わないといけません。

次に男性脳です。物言わぬ赤ん坊を育てる女性は“察する天才”でもあります。女性脳にとって“察する=大切にすること。つまり“察してくれない=大切に

思われていない”と感ずます。一方、男性は“気付かない”という戦略の脳です。男性は生殖に命のリスクがないので、異性の粗探しをしません。金属の研磨面の0.何ミクロンの傷を見つけ出す男性が、妻の髪型の変化に気付けないわけです。逆に言えば、変化に緩慢なおかげでいちいち動揺することなく、普遍の仕事を成し遂げます。また、男性脳は優れた“空間認知力”の持ち主です。物事を空間として把握し、難しい世界観を理解したり、複雑な構造の図面を描いて組み立てたりするのが得意な男性脳は、“大きなことをする力”と言えるでしょう。

男女ではものの見方も違います。男性は全体をまばらに見て、空間を一気に把握するため、手前を見逃すことがあります。反対に、女性はなめるように見るため、針の先ほど細かいものも見逃しません。もし私にスパイロボットの開発依頼が来たら、この二つのビューセンサーを用意するでしょう。足元の地雷は見逃せないし、遠くから飛んでくるものへの対応も必要です。しかし、この二つを1体のロボットに載せようとすると、2つの答えが同時に出てきて固まってしまう。なので、女性脳型と男性脳型、2体のロボットがペアで動くのがロボットの理想形。つまり、男女は違うからこそ最強な“ペアの装置”なのです。

歳を重ねるほど大きくなる「人生の波」

脳を入力・演算・出力をする装置に見立てると、人生で最も頭がいいのは56～84歳の28年間と言われています。人の脳は28年毎に周期が起こります。28歳、56歳、84歳、そして112歳。実は、私たちの脳は112歳まで進化することが分かっています。28歳までは入力装置、その後28年間かけて脳を洗練させ

て、56～84歳が出力装置として最も役立つ頃です。84～112歳の役割も気になりますが、それはまだ研究中。長生きしてぜひ体験したいと思っています。

順を追ってみましょう。28歳までは単純記憶力のピークです。脳ががむしゃらにあらゆることを記憶しようとしています。四の五の言わずに働きましょう。30歳前後になると脳がクールダウンし、周りが見えてきて社会的自我が立つ頃です。30代の脳は失敗適齢期。たくさん失敗していらぬ回路を消すことで、勘が効く、センスの良い脳をつくります。40歳前後になると、いらぬ回路に電気信号がいなくなるため、物忘れが始まります。物忘れは老化でなく進化の証です。50代の脳は、ものごとの本質や人の資質を見抜く力がピークを迎えます。しかし、その回路の抽象度はまだ低い。自分と同じ道りを歩く後輩にアドバイスはできても、別の場面には転用できません。そして60代、回路の抽象度が上がり、直感の領域で本質を見抜けるようになるので、若い人の何倍も感性の情報を拾うことができます。わけの分からないことを喚く若者の、言葉の裏にある本当の言葉を聞いてあげることができる。脳の性能、人生の波は、歳を重ねるほど大きな波になるのです。

繰り返す「時代の風」を読み、追い風に乗る

脳には今見たものをとっさに使うための超短期記憶の箱があるのですが、人類の大多数がこの箱を7つ持っていると言われていて、そして7つの箱全てに情報が入った時、人は完全性を感じます。ラッキー7に七福神、虹の七色など、私たちの身の回りに“7”が溢れているのはそのためです。また、この情報に時間幅があった場合、7つ揃うと「一巡した」という感覚が脳に残ります。一週間が良い例です。さらに、人の脳は7年で飽きる傾向があります。7年目に真逆の感性が起こり、28年目に世の中が反転し、そして56年で一巡します。つまり、56年前の

大衆の感性を振り返ることで時代を予測することができます。例えば、色鮮やかなマーブルチョコレートが流行って56周年、その時マカロンが流行りました。スカイツリーの56年前は通天閣・東京タワーが建設されました。政治もそうです。1954年鳩山一郎首相の友愛政権の誕生から55年後の2009年、鳩山由紀夫首相の友愛政権誕生。1957年、岸信介首相が就任し日米安全保障条約を取り付けましたが、こちらも56年後の2013年、孫の安倍晋三首相が就任し、久しぶりに安保に手を付けています。そして経済。2020年東京オリンピックに向けた好景気に対し、東京オリンピックで頭打ちになると予想する方も多いのですが、実は昭和最大の景気“いざなぎ景気”は1964年東京オリンピックの後、大阪万博の前なのです。東京オリンピック後に大阪万博を控え、人々の気持ちが西へ転換し、それが経済に表れました。今回、大阪万博と同じ年回りで、リアモーターカーが西で走ります。

この様に56年で大衆の感性が一巡することを考えると2020年までに強まるキーワードは“使命”です。本質、本格、使命感、孤高、世界初、世界一といった、凛々しく尖った言葉に惹かれる時代へと入ります。私たちは今、面白い時代の入り口に立っています。目の前に横たわっている男女のミゾは悠々と渡り越せませし、人生の波は後ろに行くほど大波になる。そして時代の風は今、追い風です。ミゾを上手に渡り、大波に乗って、追い風を捉えて行きましょう。



記念パーティ

平成28年7月6日(水) 17:30～
ホテルニューオータニ 本館1階「芙蓉の間」



記念パーティは、会員の皆様、産業界・政界等の関係者の皆様、約1,100名にご参加いただき盛大に開催されました。パーティへの祝辞として、来賓を代表して農林水産副大臣 齋藤健先生、公明党幹事長 井上義久先生、総務副大臣 土屋正忠先生、文部科学副大臣 富岡勉先生よりご祝辞を頂戴しました。



農林水産副大臣
齋藤 健 先生



公明党幹事長
井上 義久 先生



総務副大臣
土屋 正忠 先生



文部科学副大臣
富岡 勉 先生



副会長5名による乾杯の挨拶



埼玉県地域婦人会連合会
柿沼 トミ子 会長



堺市消費生活協議会
山口 典子 会長



札幌消費者協会
高橋 幸一 会長



全国消費者団体連絡会
河野 康子 事務局長



東京都地域婦人団体連盟
谷茂岡 正子 会長



すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト! 「ソナエラボ」がスタート



すぐにできる、
防災のアイデア

◆「すぐにできる、防災のアイデア」で第一歩のきっかけに!

災害時の生活者の自助力向上の一助になることを目的に、「すぐにできる、防災のアイデア」を発信するプロジェクト「ソナエラボ」を6月20日よりFacebookページでスタートしました。

<アクセス先>
Facebook
<https://www.facebook.com/sonaelabo>



◆いつものくらしですぐにできる、 防災のアイデアを続々更新中!

「カセットコンロがあって役に立った。」「ラップで節水ができた。」「ビニール袋が何かと使えた。」など、被災経験者の声を聞くと防災はいつものくらしの延長でできることがたくさんあります。そんなアイデアをわかりやすく、見やすく発信することで、防災を“特別”なこととハードルを高くしている方々に「これならできる!」と防災の第一歩を踏み出すきっかけになることを目指します。



◆近日、ソナエラボ WEB サイトが公開予定!

ソナエラボの今後の展開として、「すぐにできる、防災のアイデア」の発信基地となるWEBサイトを立ち上げます。本WEBサイトでは当連合会の特徴でもある“多岐にわたる会員企業・団体の商品・サービス・その他取組み”を中心に「すぐにできる、防災のアイデア」という切り口でネット記事にまとめ、くらしの中で何気なくふと見るSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等を通じて随時発信してまいります。公開日やその他詳細については、改めて当連合会よりご案内させていただきます。



生団連共催 第3回東京防災ミーティング

平成28年6月16日(木) イオン神田事務所



防災は横のつながりが大切。互いの防災の取組みについて理解を深める場を。

6月16日(木)、生団連は防災の啓蒙活動をされているNPO法人プラス・アーツ様と共催し、第3回東京防災ミーティングを開催しました。今回はイオントップバリュ株式会社の有本幸泰様と公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの小出拓己様、津田知子様より、「熊本地震支援活動」をテーマにご講演いただきました。また、今回計14企業・団体より25名の方々にお集まりいただき、お互いの防災の取組みについて情報交換を行いました。

会の前半では、イオントップバリュ株式会社の有本様よりイオンの店舗を活用した平時からの啓蒙活動、緊急時の自社商品を活用した支援、平時より業界を越えて協定を結んでいたことが役に立ったことなど、実際の支援活動で知りえた被災者の声を交えてわかりやすくご講演いただきました。また、小売業の使命ともいえる「当たり前の買い物ができる、平和な暮らしの提供」こそ、災害時に小売業ができる社会貢献があるという熱のこもったお話が非常に印象的でした。

続いて、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの小出様、津田様からは過去の災害でも幾度も問題視されている『自治体が混乱状態にある中での支援物資の適切な供給』『アレルギー対応など、より配慮した子どものための支援物資』といった個別ニーズへのきめ細やかな対応の必要性などについてお話いただきました。また、子どもの仕事は遊ぶことと言っても過言ではありません。できるだけ平常時の生活を取り戻し、被災からの立ち直りを目的に開設した『こどもひろば』についてもご紹介いただきました。

会の最後には、「企業にできること、NGO・NPOと協働できることとは」と題して2グループに分かれ、意見交換を行いました。

防災に関心のある企業や団体が情報交換を行う「東京防災ミーティング」にご興味がある方は、NPO法人プラス・アーツ様までご連絡くださいませ。

TEL 03-6458-5375 e-mail: tokyo@plus-arts.net



イオントップバリュ有本様のご講演



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 小出様(右)、津田様(左)のご講演



意見交換を行う様子

3R漫画「地球にいいコト考えよう!」を発行しました。

この度、容器包装リサイクルの現状と会員の皆様の3Rへの取り組み事例を纏めた「地球にいいコト考えよう!」を発行しました。

冊子では、容器包装リサイクルに関する課題や疑問などを漫画で分かりやすくお伝えするとともに、食品メーカー、百貨店、スーパー、飲食店、消費者団体など幅広い企業・団体の3Rへの取り組み事例を紹介しています。生活者一人ひとりが3Rについて自分事として考えるきっかけになればと思います。



表紙



中面



会員の皆様をはじめ多くの生活者、地域、企業が3Rに関心を持っていただけるよう、Webサイトでも冊子を公開しています。広く皆様にご活用いただきたいと思います。

「地球にいいコト考えよう!」Webサイト
URL <http://www.seidanren.jp/3r/>



第5回 廃棄物リサイクル分科会

平成28年6月27日(月) 15:00~
東海大学校友会館「阿蘇の間」

3R漫画冊子の完成報告と今後の活動の方向性について検討し、漫画冊子の幅広い普及と生活者一人ひとりが3Rについて自分事として考え、議論できるような場を作っていくことに注力することとなりました。

～講演～

「3R政策の動向」

経済産業省 産業技術環境局
リサイクル推進課
課長補佐(容器包装担当)
井出 大士 様



第6回 アクティブライフ意見交換会 「家事について」

平成28年7月15日(金)



60～70代のシニア層に様々な意見を伺いました。

- ・家事に対する意識 …………… 加齢と共に負担になってきていると思う家事は?
- ・家事分担に対する意識 …………… 加齢と共に自分でやらなくなった家事はありますか?
- ・家事を助けるグッズ類 …………… こんなものがあったら便利だと思う商品アイデアは?
- ・家事委託サービス評価 など …………… 色々な家事を代行するサービスを知っていますか?

生団連ホームページをリニューアルしました! ～ホームページの充実を図っています～

7月5日より生団連の活動をよりご理解いただけるよう、活動内容をメインに掲載しています。

I renewed it

生団連 SEIDANREN 国民生活産業・消費者団体連合会

国民の生活・生命を守るため、555の企業・団体が業種・業態の垣根を超えて、生活者視点で実践と発信を行います。

活動最新情報

- 大災害への備え 「ソナエラボ」スタート
- エネルギーと環境問題への対応
- セミナーなど 定例勉強会(細野豪志先生)
- 生団連の活動 平成28年度 第1回常務理事会・理事会合同会議
- 食品廃棄物問題への対応 第7回食品廃棄物対策委員会
- 人口減少と超高齢社会への対応 第5回アクティブライフ意見交換会

大震災への備え 事例集

もったいないプロジェクト

生団連 お出かけ節電 savepower.jp

会社の輝きに買エルマン

買エルマン Twitter公式アカウント

お知らせ

- 2016.07.11 ニュースレターVol.39を発行いたしました。
- 2016.06.20 【大災害への備え】すぐにできる、防災のアイデアを発信するプロジェクト「ソナエラボ」が始まりました。(Facebookページへ)
- 2016.06.15 会報誌VOL.16を発行いたしました。

生団連ホームページURL : <http://www.seidanren.jp/>

夏の電力ピークカット対策

楽しく省エネ

『クールシェア』家族でお出かけ節電しませんか!

生団連では、夏の電力ピークカット対策として、生活者の皆様がひとり1台のエアコンをやめ、家族でお出かけをしたり、家の中でも同じ部屋で団らんするなど、楽しく節電できる『クールシェア』を推進しています。

お身体に無理(熱中症等)のないかたちで、ぜひ皆様も一緒に楽しく節電を行いましょう。



生団連 クールシェア で検索いただくか、下記 URL にてご覧ください。
<http://funtoshare.env.go.jp/coolbiz/coolshare.html>

定例勉強会

国際経済研究所と共催で定例勉強会を開催しています。毎回、講師の先生をお招きし様々なテーマでご講話を頂戴し、質問・疑問におこたえいただいています。ご興味ございましたら、是非ご参加ください。

	講師の先生方	テーマ
6月度	細野 豪志 先生 (衆議院議員、元環境大臣)	『参議院選後の政治・経済動向』
7月度	加藤 達也 先生 (産経新聞社 社会部編集委員、 産経新聞社 前ソウル支局長)	『日韓関係の現在』

(講師の肩書は講演当時)



6月度



7月度



国民生活産業・消費者団体連合会

発行:国民生活産業・消費者団体連合会

発行日:2016年8月10日

本 部:

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 3-6-2 小津本館ビル7階

電話(03)3662-5240 / FAX(03)3662-5285 / E-mail: jim@seidanren.jp

虎ノ門事務所:

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル11階 日本チェーンストア協会内

電話(03)6268-8730

ホームページ:<http://www.seidanren.jp>